

ダンボール箱で生ごみ堆肥を作ろう

ダンボール箱を使った生ごみ堆肥作りは、ダンボール箱にピートモスやもみ殻くん炭などで微生物のすみかを作り、自然界と同じようなくみで生ごみを堆肥化しようというものです。

家庭から出る可燃ごみの約半分を占める生ごみを減らすことにより、可燃ごみの袋代の節約になったり、ごみ置場に出した可燃ごみがカラスやネコに荒らされるのを防げるなどのメリットがあります。

生ごみで作った堆肥は、有機質に富む良質な堆肥となります。家庭菜園で花や野菜を作り、資源の循環利用をご家庭で実践してみませんか？

ダンボール箱で作る生ごみ堆肥レシピ

—用意する物—

■ダンボール箱 2個

※みかん箱か梨箱程度の大きさ

ダンボール紙が二重になった頑丈なものが適しています。

■素材（ダンボール箱の容積の4割程度）

ピートモス 約12ℓ（20ℓ・600円程度）

もみ殻くん炭 約8ℓ（20ℓ・600円程度）

※ホームセンターや園芸店で購入できます。

■混ぜる道具

ゴム手袋やへらなど

■土台

木材やラップの芯など、通気性を良くするための台

■その他

棒温度計 ※ホームセンターなどで購入できます。ラップの芯など

使い古しのTシャツなど ※虫の侵入を防ぐためのカバーに使います。



豆知識 ピートモス、もみ殻くん炭とは？

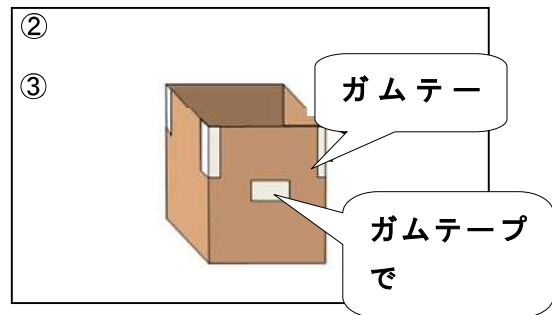
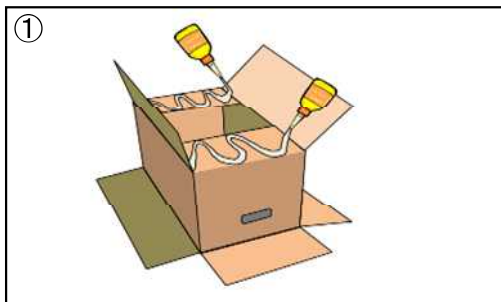
ピートモスは、ミズゴケ、シダなどが土中に堆積してできた泥炭を採掘し、乾燥・粉碎したものです。通気性や保水性が良く、微生物のすみかとなるすき間が多いため、主に土壌改良剤として園芸用資材に利用されています。なお、ピートモスを使用すると酸性が強くなるので、もみ殻くん炭で酸性度を弱める必要があります。

もみ殻くん炭は、稲のもみ殻をいぶし焼きにして炭化させたものです。ピートモスの酸性度を弱め、臭気も弱めます。また、すき間が多く微生物のすみかとなります。

—容器の作り方—

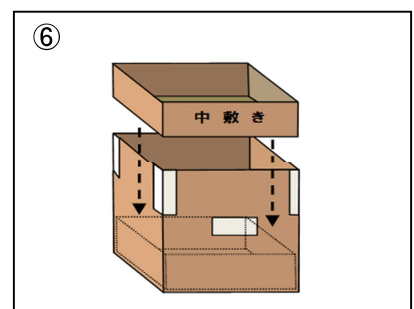
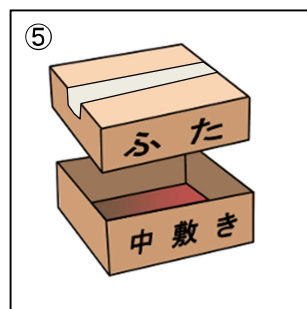
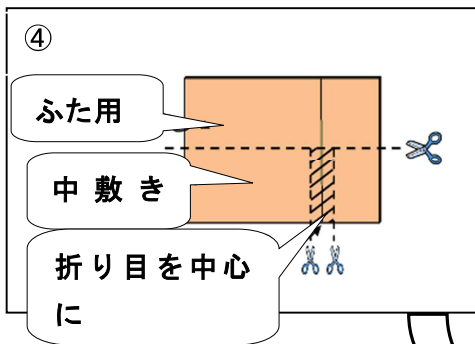
《本体》ダンボール1箱・ボンドなど・ガムテープ

- ①底の部分をボンドなどで接着する。
※ボンドがない場合はガムテープでとめる。(底の通気性は多少落ちます)
- ②上ふたを立ち上げてガムテープでとめる。
※箱によっては、中敷きを入れてからとめた方がよい場合があります。
- ③持ち手の穴はガムテープでふさぐ。
※すき間があると虫が侵入し、中で繁殖することがあります。



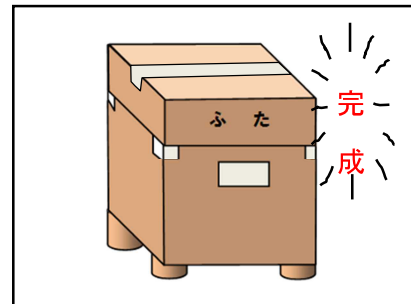
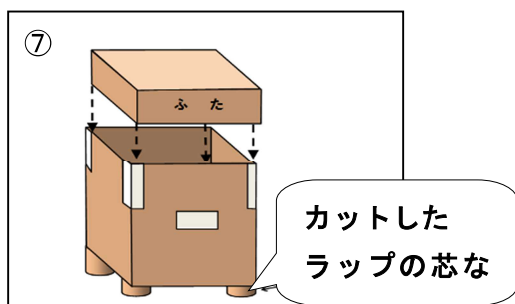
《ふた・中敷き》ダンボール1箱・ガムテープ

- ④ダンボールをふた用と中敷き用に切りわけ。中敷き用は、本体より一回り小さくするため、折り目を中心に3cmの幅で切り取る。対角の折り目も同様に切り取る。
- ⑤ふた用は、ガムテープですき間のないようにとめる。
- ⑥中敷き用は、本体の補強のため、本体の内底に貼り付ける。



《土台》ラップの芯など

- ⑦ラップの芯などを5cm程度の長さに切り、本体の底に貼り付けて土台とします。
※通気性を保つため、本体と床にすき間を作るものなので、木片などを置き、その上に本体を乗せても良い。



— 素材の用意 —

- ピートモス約12ℓともみ殻くん炭約8ℓ(3:2の割合)を本体に入れ、混ぜます。その後水(1.5ℓ~2ℓ)を加え、手でさわってしっとりするくらい、または手で握るとつかめる程度にかき混ぜます。



ピートモス



もみ殻くん炭



— 使用方法 —

- 棒温度計を中心部に差してください。
- 容器の置き場は、なるべく室温15度以上が確保できる場所で、通気性を保つため床や壁から5cm程度離して置きましょう。※屋外にも置けますが必ず雨のかからない場所に置いてください。ただし、冬期は気温が低いので屋内の方が適しています。
- 虫の侵入を防ぐために、容器には必ずふたをしましょう。
また、使い古しのTシャツ(えり首とそでをぬい合わせ袋状にしたもの)などを、上部にかぶせるとなお効果的です。
- 1日約500g程度の生ごみを容器に投入することができます。一度に多く入れると水分が多くなり分解しにくくなります。また大きい物は、小さく切って入れてください。はさみやみじん切り器で細かくしてから投入すると分解が早くなります。
- 魚などの生ものは熱湯にさらしてから入れると、臭いやハエなどの発生が抑えられます。
- 分解には酸素が必要ですので、生ごみを入れたらよくかき混ぜて、隅々まで空気に触れさせてください。生ごみを入れない日も1回はかき混ぜましょう。
- 表面に白いカビが生えてきたら、よくかき混ぜてください。

— 終了のサイン —

- 2~3ヶ月程度つづけると温度が上がらなくなり、素材が固まりになったら終了のサインです。

— できた堆肥の使い方 —

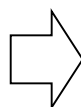
- ダンボール箱から取り出し、堆肥の2~3倍の重さの土と混ぜて通気性のある袋に入れるか、庭などで盛土し、1~2ヶ月熟成させてから栽培に使います。
プランターや畑で使用できますが、作物の状態によっては化学肥料等を追加するなどして、使用してください。
- 家庭菜園で花や野菜作りに使ってみましょう。



家庭で出た生ごみを



ダンボール箱で堆肥化



他の土と混ぜて熟成



できた肥料を使って家庭菜園

－注意すること－

●温度の管理

生ごみを入れてから1～2週間で30度以上になります。40度前後を保つようにしてください。温度が低いときは、廃食用油、米ぬか、天かす、小麦粉、きな粉、砂糖などを入れると温度が上がります。また、約60度を超えるようなら、混ぜる回数を増やし、空気を土の中へ取り入れて冷やしてください。

投入する生ごみが野菜くずだけでは温度が上がりません。ご飯や麺類、肉や魚などを入れると温度が上がります。

●水分調整

素材の適度な水分の状態は、手で握ってつかめる程度です。水分が少ないときは水を加えてかき混ぜてください。また、水分が多いときはピートモスやもみ殻くん炭を入れてください。

●投入しない方がよいもの

塩分が多いもの（塩鮭、塩から、漬けものなど）、固いもの（梅干しの種、鶏ガラ、豚骨、貝殻、トウモロコシの芯など）、水分の多いもの（スイカの皮）、玉ねぎの皮などは分解しにくく、堆肥化が遅れます。



一口メモ



- 何日か続けていると、「投入した生ごみが消えている！」と驚きます。
- 「ダンボール箱で生ごみを処理している。」とは思わず、「微生物のペットを飼っている。」と思えば作業も楽しくなります。ペットにエサを与えるつもりでがんばりましょう。



生ごみ堆肥を使って栽培したゴーヤ
(旧米子市環境政策課)



ゴーヤのグリーンカーテン
(旧米子市環境政策課)

問い合わせ先

米子市河崎3280-1

米子市市民生活部 クリーン推進課

電話(0859)23-5259

E-mail: clean@city.yonago.lg.jp